

ふるさと見て歩き

第53回

大地震と文化財(1)

◆市内文化財の被災状況

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震で、常陸大宮市は震度6強を観測しました。人的被害は少なかつたものの、建物やライフラインなどに大きな被害が出ました。同様に、古くから守り伝えられてきた文化財にも多くの被害が生じ、危機的な状況にあります。5月号と6月号の2号にわたり、今回の地震での文化財被害と、過去の大地震、大津波についてご紹介します。

県および市指定文化財については、強い揺れにより仏像の位置が動いたり、文化財の収蔵施設が破損を受けたりするなどの被害が出ましたが、幸いに少数にとどまりました。被害の多くを占めるのは、寺社の鳥居や石灯籠などをはじめとする石造物の破損や倒壊です。これらの多くは指定文化財ではありませんが、同様に貴重なものです。今後、復旧や修復を行い、本来の姿を後世に伝えられるような処置をしていく必要があります。



▲倒壊した部垂義元顕彰碑（北町）



▲倒壊した甲神社の鳥居（下町）



▲土台が被害を受けた甲神社本殿（下町）



▲石垣や屋根瓦が破損した御城展望台（山方）



▲御神体の陰陽石が崩壊した陰陽神社（山方）



▲石仏が落ちるなどの被害が出た百観音（那賀）

震災で被害を受けられた方の中には、母屋や蔵などの解体・改修される際に、昔からしまい込まれていた「古いもの」の処分を考えられる方もいるかもしれません。古い書付や道具、手紙や書籍など、一見ごみのように見えても貴重な文化財である場合があります。これらは水濡れしたり汚れたりしても修復することができます。

これらの処分をお考えの場合は処分される前に、歴史民俗資料館大宮館までご連絡ください。

地域の文化財が失われるのは、歴史的に見て、災害や戦乱、行政や共同体の移行（市町村合併など）、家屋の建て替え、移住などの時です。地域の貴重な文化財を未来に守り伝えていくため、皆さんのご協力をお願いします。

歴史民俗資料館大宮館

☎52-1450